

「嶽尾城」

嶽尾城は、国鉄廿日市駅東方の山陽本線と広電宮島線に挟まれた竹尾山にありました。

最高所で第一郭と見られる一部がわずかに残されているのみで、北側は大きく切り崩され、南側は畑地のために段状に削平されているので、旧状については全くわかりません。

第一郭部分に元禄一三年（一七〇〇）、その他の墓碑が残されています。

天文二三年（一五五四）六月五日

の明石口の合戦、九月一五日の折敷

畑山の合戦後、陶勢は友田（佐伯町

）に高立城（高森城）を築きました

ので、これに対して毛利方は、向城

として狼倉山城（佐伯町）を築き、

進藤豊後守を置いて守備し、佐方に

も嶽尾城を築き遠藤美作守元綱を置

いて、濤勢に対しました。

嶽尾城は桜尾城の搦手方向に位置

しており、毛利方の本営である桜尾城を守備するために築城されたものでしょう。

城の西麓、城内一七―四 山本朝則氏宅地内に夕出合の清水ヶの跡が残されています。

安芸の国の

手まり唄

謙田定雄

てんでん てんまり てんでまり

あれあれ あれを みてごらん

あれは御座船 清盛さまの

お乗りあそばす 龍宮丸よ

安芸の七浦 まわれは袖が

十二単の 袖が濡れます

てんでん てまりは はずみまず

てんでん てんまり てんでまり

あれあれ あれを みてごらん

あれは供船 敦盛さまの

おのりあそばす 乙姫丸よ

安芸の七浦 まわれは笛が

妙に青葉の 笛が鳴ります